

2014年6月30日

最近の韓国・中国・台湾経済情勢について

お知らせ

今週は名古屋、立川、名古屋、東京、金沢、埼玉、東京と転戦して参りました。

各地では、成長戦略に対する評価はまちまちでありましたが、皆さんの共通していたお言葉は、「自力再生が先ずは大切である。」

という言葉でありました。

その通りであると思います。

その移動の最中に、駅の階段で、突然、携帯電話がなり、慌てて電話を受けようとしたところ、靴が引っかかってしまい、持っていた大きなカバンに振り子のように振られた上、足を踏み外して、どンドンどンドンと階段を十段以上も頭のほうからスライディングをしていくように落ちていってしまいました。

凄い音での墜落、周りの人も駆け寄ってきてくださいましたが、幸い、手を上手に使えたことから、たいしたこともなくその場を凌ぐことが出来ました。

ところが、その際にぶつけた手足が翌日から痛むと共に、所謂むちうち状態、更には鼻の中を傷つけたことから、翌日の講演会では、何と恥ずかしいことに開始早々、突然、鼻血が出て、講演会参加者の方々を驚かせてしまいました。

ちょっとした不注意が招く災い、改めて、いい意味での「緊張」を以って、日々の生活をするこの大切さを、身をもって感じました。

皆様方もお気をつけください。

[今週のチェック・ワード]

[変動の大きそうなインド情勢見通しについて]

最近のインド情勢を見ていると、新しく首相になったモディ氏に関しては、

- (1) 経済政策運営手腕の高さ
- (2) 国内での信認の高さ
- (3) 周辺政財界のサポート力の強さ
- (4) いち早く欧米寄りの経済政策運営姿勢を見せたことに伴う、国際金融筋のインド回帰の動きの早さ

などからして、今後のインド経済は堅調に推移する、と私は考えていましたし、また、国際金融筋にもそうした見方が強まりつつあったと思います。

特に、最近になり中露接近が表面的にも見られる中、ロシアとの関係が深いインドが、この中露連携に加わるような動きをもしも示せば、米英との距離が開く可能性がある、すると、これをリスクと捉える国際金融筋は、インド回帰をここで思い留まる可能性はあったであります。

而して、モディ新首相が米英寄りの姿勢をいち早く示したことから、これが好感され、国際金融筋のインド回帰は、むしろ早まる、その結果、通貨・インドルピーも堅調に推移し、インド株も上昇トレンドを明確にするのではないかと私は期待感も含めた見方をしていました。

ところが、こうした期待に対する、ここに来ての思わぬ伏兵が出てきました。

それは、ずばり「イラク情勢」ではないかと私は考えています。

即ち、イラクに限らず、アルカイダをはじめとする、所謂イスラム原理主義を根底としたイスラム

過激派組織は、中東、アフリカ地域を中心に、宗派や理念などの違いを利用して、とにかくお構いなく、現行の秩序を乱す、即ち、世界規模での社会混乱を引き起こすことを目的として活動を更に活発化、過激化していると見られるのであります。

こうなると、もともとヒンドゥー色の強いモディ新首相に対するイスラム過激派組織の付け入る理由があり、その結果として、何らかの仕掛けをしてくる可能性をも否定出来ず、万一、こうした混乱にインドが巻き込まれていくような可能性が高まれば、当然に国際金融筋のインド回帰の勢いも鈍るでありましょう。

果たして、今後、揺れが大きくなり始めた中東を横目に南アジアにもこうした混乱が伝染してこないか、インド情勢を眺める上からも、注視していく必要があります。

[台湾・中国・その他]

—今週の台湾・中国—

[台湾]

台湾政府・経済部は、5月の海外受注高について発表したが、これによると、

「台湾の5月の海外受注高は、前年同月対比4.7%増の380億米ドルとなった。」

と発表している。

尚、これにより、前年実績対比で増加トレンドを示したのは、4カ月連続となっており、スマートフォンに使う半導体を中心にした電子製品が12.6%増と大幅に伸びたことが造花の背景であったとコメントされている。

引き続き動向をフォローしたい。

[中国]

中国本土政府は国内の秩序安定に腐心していると見て取れる。

こうした中国本土政府の政策姿勢にも拘らず、国内では混乱の火種があり、懸念材料ともなっている。

そして、中国本土政府は「一国二制度」という統治姿勢を示しつつ、英国から1997年に返還された香港に対しても、香港での民意を尊重しつつも、中央政府に対する不信や不満が高まらぬように、微妙なさじ加減を必要とする統治姿勢を取ろうとしていると思われる。

こうした中、香港特別行政区政府のトップである梁振英行政長官は、行政長官の選挙制度に関する民主派の提案については基本法に違反しているとの立場を示唆している。

経済での自由化は維持されているものの、政治、情報などの面では中国本土政府による統制色も見られると思われる香港問題について、中国本土政府が今後如何に関与してくるのかフォローしたい。

—今週のニュース項目（見出し）—

1. 中国本土、不動産バブル対策について
2. 中国本土、製造業景気動向について
3. 中国本土・習国家主席、韓国訪問計画について
4. パキスタン情勢について
5. 中韓関係について
6. 北朝鮮動向について
7. ベトナム経済動向について

## —今週のニュース—

### 1. 中国本土、不動産バブル対策について

中国本土経済は外需の発展を軸に内需も拡大し、順回転の拡大傾向を示してきているが、ここにきて外需部門の鈍化に伴い、内需も鈍化、この結果として、経済成長全体も鈍化しつつあり、13億5,000万人もの人口を抱える中国本土の社会秩序の維持にも支障をきたす可能性も指摘されている。

こうした中、中国本土政府・金融当局は「経済成長と物価の安定」のバランスある金融政策を実施していくことに必死である。

そして、中央銀行である中国人民銀行は、

「中国本土では住宅購入が資産を増やす主要な手段であり、経済発展に多くの問題をもたらしている。

即ち、投資が不動産に偏る歪みを生み、その反動として不動産バブルの崩壊、さらには経済危機を招く可能性もある。」

との認識を示し、必要に応じて、対策を打つ姿勢を示している。

但し、現行の中国本土の短期金利水準を見ると、今年は2%台で推移しており、景気下支えのため中国人民銀行が金融緩和気味に政策を運営していることが伺われており、今後、中央銀行がバブル抑制と景気刺激をどのようなバランスで意識し、政策運営していくのかについては、注目される。

今後の動向を注視したい。

### 2. 中国本土、製造業景気動向について

英国の金融大手であるHSBCは、中国本土の6月の製造業購買担当者景気指数（PMI）速報値を発表したが、これによると、PMIは50.8となり、5月の確報値である49.4より1.4ポイント改善している。

中国本土政府の景気支援策が効果を挙げていると見られている。

尚、この中で中国本土の1～5月期の住宅販売額は前年同期対比8.5%減となっており、こうした住宅市況の悪化は、固定資産投資の減速に繋がり、景気に悪影響を与えかねない。

しかし一方で、バブル崩壊のリスクも今の中国本土では取りにくい。

今後、如何なる対応がなされるのか、中国本土政府の動きを注視したい。

### 3. 中国本土・習国家主席、韓国訪問計画について

来月初めに韓国を訪問する中国本土の習近平国家主席は、韓国の主要企業である三星電子の事業所を訪問し、李在鎔副会長と面談する見通しであるほか、同じく、韓国有数企業の一つである現代自動車の鄭夢九会長をはじめとする韓国財界関係者らとの面談も計画されている模様であると伝えられている。

習主席は7月3～4日に韓国を訪れ、朴権恵大統領と首脳会談を行う予定であり、習主席の韓国訪問は昨年3月の就任以来、初めてとなるものだが、上記は、これに併せての韓国財界との面談予定となる。

中韓経済関係がどのように推移していくか、注視したい。

### 4. パキスタン情勢について

パキスタンでは、過激派勢力の掃討作戦を政府が展開している。

こうした中、パキスタン北西部ペシャワルの空港で、着陸態勢に入っていたパキスタン航空機に向けて何者かが銃撃し、乗客の女性1人が死亡、乗員2人が負傷するという事件が発生している。

犯行の詳しい背景は不明なるも、同国北西部の部族地域で武装勢力の掃討作戦を政府が進めていることに対する反発が、犯行の背景にある可能性があると思われる。

今後の動向をフォローしたい。

## 5. 中韓関係について

7月に予定されている習近平・中国本土国家主席の訪韓で今回、中韓両国が達成しようとしている目標は何か、内外で注目されている。

そして、日本も米国も、中韓関係が経済分野を更に超えて、外交・安保領域での協力まで拡大するのか否か注目しているものと思われる。

韓国は米国、中国本土はロシアや北朝鮮を意識しなければならないという現実的な足かせ要因もあり、具体的な安保協力案を中韓両国が作っていくことが必ずしも容易ではないことは推測に難くない。

こうした中で、習主席の訪韓を機に検討されている「中韓・全面的戦略協力パートナー関係」への格上げと、これに関連して、その内容の「質的格上げ」を更に進めるべきであると中韓両国首脳は考えていると見られている。

韓国の李明博前政権時代に中国本土と「戦略的協力パートナー関係」を締結したものの、これを具体的に推進することはまだ出来ていない。

当時の韓国政府は事実上、中国本土と同盟に近い関係を作ろうとの趣旨でこれを推進したと見られている。

しかし、この際には韓国哨戒艦「天安」爆沈の時の中国本土の北朝鮮擁護、韓国の米国中心外交などで韓中関係が冷え込み、結果としては、中韓の戦略的関係は大きな進展はなかったという経緯がこれまでにある。

果たして、今回の中韓の動きは具体的な蜜月関係にまで進展していくのか否か、今後の動向をフォローしたい。

## 6. 北朝鮮動向について

筆者は、北朝鮮は中国本土の習国家主席の訪韓に関連して、中韓が更に接近することを嫌い、様々な仕掛けをしてくと見ている。

こうした中、北朝鮮は日本海に短距離の発射体3発を発射している。

発射地点は北朝鮮南東部、元山近く、飛距離は190キロメートル程度と見られている。

北朝鮮の朝鮮人民軍西南戦線司令部は、

「韓国軍が黄海の韓国側海域にある延坪島周辺から、我が方水域に向けて砲弾を発射する重大な軍事的挑発をした。」

と発表し、これに対する北朝鮮の反応としての発射であるとの主旨のコメントをしている。

南北朝鮮関係がこじれれば、中国本土としては、その地政学的な立ち位置から、簡単に韓国擁護に回ることは出来ないであろうし、少なくとも、中立を保たなくてはならないであろう。

今回の北朝鮮の動きは中国本土を牽制する巧みな動きとなっているのではないだろうか。

## 7. ベトナム経済動向について

ベトナム政府・統計総局は、本年1～6月の実質国内総生産（GDP）伸び率が速報値基準で前年

同期対比5. 18%増になる見通しであると発表している。

欧米向けの縫製品輸出などが堅調に推移し、前年同期の成長率を上回ったと見られている。

ベトナム経済はここにきてやや落ち着きを見せていると見ておきたい。

## [韓国]

### —今週の韓国—

韓国国内のマスコミ報道を追いかけ、更に、最新の世論調査などを眺めると、やはり、朴権恵大統領に対する支持は間違いなく低下しているようである。

セウォル号沈没事件に関連して行った新首相の人事に対する国民の不満もまだ残っており、支持の低下傾向はなかなか歯止めが掛からない。

首相は辞意を表明した鄭首相の再任と言う形で決着する方向ともなっていることから、更に朴大統領の求心力は低下しかねない。

しかし、時幸いにも、一般的に言えば、韓国国民が熱狂するワールドカップ・サッカーが開幕し、国民の目をこちらに向けるかのような報道も増えているが、日本と共に、韓国は一次リーグで惨敗し、あっさりと敗退したこともあって、国民の政府に対する不満や不信を払拭できるかどうかは不透明である。

こうなると、やはり歴代韓国政権のリーダーたちが用いる常套手段である、

「対外問題に国民の目を向けて、逆風を回避する。」

というスケープゴード作戦がまたぞろ展開される可能性もあり、その結果としては、一番の対象となり得る日本に向けられる厳しい目が続く、或いは強まるとも予想される。

実際に、「河野談話」に対する日本の対応に不満を示し、韓国国民を強く意識した「断固たる態度」をここぞとばかりに日本に対して示す韓国政府の対応に、韓国国民が今後どのように反応をしていくのかなども注目していくべきであろうと思う。

更には、日本政府が間違いなく厳しい反発をし、韓国国民の目を向けさせやすい「独島＝竹島」に於いて、韓国政府はこのタイミングで、射撃訓練を開始しているのも、上述したようなことを背景とした一連の動きとも見て取れる。

筆者は、日韓の真の関係改善を強く望む者の一人であるが、現実はこれと逆行する動きをとる可能性が高いとも思われる。

今後の動向をフォローしたい。

### —今週のニュース項目（見出し）—

1. 農業とFTA問題について
2. 米国に於ける韓国車の評価について
3. 物価動向について
4. 政界動向について
5. LGハウシス、モンゴルビジネスについて
6. 消費者心理について
7. 小売動向について
8. 南北会談について
9. 経常収支動向について

### —今週のニュース—

### 1. 農業とF T A問題について

国際化、国際標準化には日本以上に積極的とも見られる韓国政府は、コメ市場開放の方針を公式に表明する一方で、今後の自由貿易協定（F T A）交渉ではコメを関税撤廃の対象から除外するなどの対策を発表した。

これに対して、野党を中心とした政界や農業団体は反発しており、今後、国内問題として混乱が拡大していく可能性もある。

今後の動向をフォローしたい。

### 2. 米国に於ける韓国車の評価について

米国の大手調査会社であるJ Dパワー・アンド・アソシエーツは「2014年米国自動車初期品質調査」を発表したが、これによると、韓国の現代自動車が全20ブランド中で1位となっている。ポルシェ、ジャガー、レクサスといった高級ブランドを含む調査でも、現代自動車は昨年の10位から今年は4位に上昇している。

また、昨年5位の起亜自動車も、シボレーと並んで3位に入っている。

J Dパワーは1968年に設立された自動車市場調査機関で、米国の消費者が車を購入する際には同社の調査結果を重視しており、今回の調査は昨年11月から今年2月にかけて、米国で自動車を購入して3カ月すぎた消費者を対象に233項目について品質満足度を調査した結果として示されたものである。

韓国車の米国における評価として、一応の参考としたい。

### 3. 物価動向について

中央銀行である韓国銀行は、

「5月の卸売物価指数は前年同月対比、前月対比揃って横ばいとなった。」

と発表している。

5月の指数を項目別にみると、庶民の生活に密接に関わる農林水産品が前年同月比0.5%上昇している。

為替相場と原材料価格の影響が大きい工業製品は、1次金属製品や電機および電子機器を中心に1.4%下落している。

逆に、サービスは飲食および宿泊、不動産などが上がり、全体では1.6%上昇している。

韓国の物価は為替相場がウォン高に振れていることもあり、比較的安定していると見ておきたい。

### 4. 政界動向について

朴政権が進める内閣改造に伴う人事の混乱が続いている。

教育相や国家情報院長の内定者らのスキャンダルが浮上し、首相人事も混乱し、野党が批判を強めている。

政治日程的には、7月末の国会議員の再・補選を控え、政権の懸念材料が払拭できていない。

こうなると、更に朴政権の外交面での強面姿勢が更に強まる可能性も出てくる。

引き続き、動向をフォローしたい。

### 5. L Gハウシス、モンゴルビジネスについて

筆者の経験からすると、モンゴルでは土木作業の技術経験も浅く、それを遂行するプロフェッショナルも一般的には限定的である。

よって、モンゴルに於いてはインフラ開発や住宅建設などの分野では、外資系の企業、就中、中国本土や韓国の企業が参画しているケースが見られる。

こうした中、韓国のLGハウシスは、モンゴルの首都ウランバートルのシャングリラ・ホテルと新空港の建設現場に、500億ウォン規模のアルミカーテンウォール（建築物の外装）の販売契約を結び、来年9月までにおよそ700万トンの関連製品を供給する予定であると発表している。

尚、同社は、

「今年はモンゴルに限らず、ドバイなど新興市場の攻略に力を注ぎたい。」

としており、注目される。

## 6. 消費者心理について

中央銀行である韓国銀行が発表した6月の消費者動向調査の結果によると、経済状況に対する消費者の心理を総合的に示す消費者心理指数(CSI)は107で、5月の105より2ポイント上昇、改善している。

CSIは基準値100を超えると景気が上向くと見る人が多いことを意味し、100を下回るとその逆となる。

先月は4月に発生した旅客船セウォル号沈没事故の影響で前月比3ポイント下落し、8カ月ぶりの低水準だった。

今回、指数は上昇に転じたものの、同事故発生前の水準には回復していない。

項目別では、6カ月前と比較した現在の景気判断CSIは79で前月の76より上昇したが4月の91に比べると12ポイント低い水準である。

6カ月後の景気見通しも98で前月より4ポイント上昇したが4月の101には及ばなかった。6カ月後の就業機会の見通しCSIは93で前月より2ポイント上昇したが、やはり4月の96より低い水準である。

韓国銀行は、

「消費者心理が回復しているがセウォル号事故前の水準には及ばない。

6カ月前と比較した現在の景気判断が低い水準にとどまり、景況感がよくないことがうかがえる。」とコメントしている。

今後1年の予想物価上昇率を示す期待インフレ率は2.8%で、前月と同じとなっている。

物価に影響を与える要因としては、公共料金(58.1%)や工業製品(41.3%)、家賃(33.7%)が挙げられている。

今後の動向をフォローしたい。

## 7. 小売動向について

韓国政府・産業通商資源部が発表した5月の主要小売店売上高動向によると、大型スーパーの売上高は前年同月比1.2%増加している。

大型スーパーは1月の18.6%増以来のプラスとなっており、大型飛び石連休やサッカー・ワールドカップ・ブラジル大会が影響し、特にテレビ販売の拡大を追い風に家電・文化用品が13.4%急増したという点が特筆されている。

また、百貨店の売上高も前年同月比0.8%増加した。

更に、コンビニエンスストアも行楽客の増加に伴い6.9%伸びている。

こうしたことから、国内消費は若干回復していると見られている。

## 8. 南北会談について

韓国と北朝鮮の経済協力事業である開城工業団地の運営について協議する5回目の南北共同委員会が開催された。

しかし、今回もまた具体的な合意には至らなかった。

北朝鮮が2月、韓米合同軍事演習に反発し、南北関係が悪化してから南北の局長級協議が行われるのは初めてであり、委員会の開催は昨年12月以降、約半年ぶりであったが、具体的な成果が見られなかったということである。

今後の動向をフォローしたい。

## 9. 経常収支動向について

中央銀行である韓国銀行が発表した国際収支（速報値）動向によると、韓国の5月の経常収支は93億米ドルの黒字を記録している。

黒字幅は前年同月に比べ4億5000万米ドル縮小したものの、前月対比では21億8,000万米ドル増加し、また、経常収支の黒字はこれで27カ月連続となった。

詳細を見ると、貿易収支の黒字は93億5,000万米ドルであり、輸出が526億1,000万ドルと前年同月対比1.8%減、輸入は432億6,000万米ドルで同1.6%減となっている。

経常収支の黒字が続く、韓国ウォンのウォン高傾向が続く可能性が高まっていると見ておきたい。

### [トピックス]

皆様は、シンガポールという国をどのように見ていらっしゃいますか？

私は、銀行員として香港に駐在した際に、このシンガポールという国の人や機関と仕事をして様々なことを学びましたが、以下のように概観しています。

今日は私のシンガポール観をお聞きください。

マレー半島の先端の小さな島に約500万人の人口を抱える国、シンガポールは、1965年にマラヤ連邦から独立しました。

しかし、第二次世界大戦後のシンガポールは、英国植民地から一旦、独立したという実績はありません。

ところが「経済的自立」に窮し、失業率の高い貧しい国となりさがり、当時、首相となったりリー・クアンユー氏はマラヤ連邦との合併の道を一度模索したのであります。

しかし、マラヤ連邦の多数派であるイスラム教徒との調整が難しく、結局、この合併は上手くいかず、一部のマレー人、そして、インド人を抱えながら、シンガポールは、華人が中心となった国家として独立、その年が1965年でありました。

当時、マラヤ連邦とシンガポールの実力の差が大きくある中、シンガポールの独立を可能にした背景には、旧宗主国・英国のマラヤ連邦に対する牽制もあった、即ち、マラヤ連邦が、イスラム教徒が中心の国としてイギリス離れを加速しないよう、これを牽制するために、ライバルとしてのシンガポールを建国することにイギリスが深く関与していたとの見方がなされています。

大英帝国の帝国主義的支配地統治の正に本領ですよ。

そして、そうしたイギリスの思惑と影響力を受けながら、シンガポールは力を蓄え、更にそのシンガポールを中心に、中華人民共和国・人民解放軍の南下政策を阻止する組織としての東南アジア諸国連合の基盤も構築されていったとも言えましょう。

一方、シンガポール自身の課題は、前述した「経済的自立」にあり、この点に関しても、イギリスの専門家のアドバイスも取り入れながら、シンガポールは、



## 1. 海外投資誘致戦略

外資に対する自由度の保障と労働組合活動の規制を行うこと。

## 2. 貯蓄の奨励

事実上の国家運転資金を造成すること。

## 3. 民族融和の推進

シンガポールと言う狭い域内での華人とイスラム教徒、印華僑の融和を図ること。

## 4. 計画経済の実施とこれを支える財政、金融政策の推進

健全な財政と国際収支を背景に内外の信認を高めること。

といった政策を推進していきました。

そして、こうしたことを通して、シンガポールは、

「やや質が低くとも比較的良いものを安く提供する大量生産大量販売型国家」

として活躍してきました。

しかし、2001年の中華人民共和国のWTO加盟などにより、シンガポールのこうした国際的な立ち位置が揺るがされるようになった2003年以降、シンガポールの国家戦略は、一気に大きく転換し「少量でも良いから、多品種高品質、高利潤」の体制に転換することを決意、シンガポール政府は、そうした方針転換の中で「大幅な減税、ベンチャー育成、産業クラスターの構築」を推進し、今日に至っていると私は見えています。

極めて、小回りの効く、実利優先主義的な国家ですよね。

内に対しては統制国家的要素を持ち、外に対しては自由主義を標榜するシンガポール、今後の動向を引き続き、しっかりとフォローしたいと思います。

### [今週の“街角のお話”シリーズ]

人はどうして同じ「人」族である「人」同士の殺し合いをするのでありましょうか？

学術的には同種族で殺し合いをするのは「チンパンジーと人」くらいなもので、他の生き物は同種族同士で殺し合いをすることはありません。

そしてまた、本来、高度の知能を持ち、脳を発達させたことによって「精神性の高まり」への進化も可能にした人族が、人々を幸せに導くために作りだしたであろうはずの宗教を背景にして「宗教戦争」を起こすことなど、私にはどうしても納得がいかないものがあります。

宗教が悪いのか、人が悪いのか、いずれにても、昨今の国際情勢を見ていると、シリア、ウクライナ、イスラエル・パレスチナ、イラク、マリ、中央アフリカ、南沙諸島等々、世界に、

「宗教、そしてその延長線上のスタンダードを背景とした殺し合い」

が絶えぬどころか、最近では更に拡大する可能性まで出てきて、私の心配は更に募ります。

私の単なる杞憂、思い過ぎであればよいのですが、本当に心配な国際情勢です。

こうした中、ご縁がある伊勢神宮の話を知りましたところ、平安末期から鎌倉初期に実在した武士であり、僧侶であり、また歌人としても有名な「西行法師」の詠んだ歌に接しました。

「何事のおはしますかはしらねどもかたじけなさになみだこぼるる」

という歌です。

これは、西行法師が、伊勢神宮に詣でて、その時の感動を詠んだものであり、既に仏教に帰依していた身の西行法師は、伊勢神宮の名前を直接出すことを遠慮して、

「(伊勢神宮には) 何がいらっしゃるかはわからないが、そのありがたさに涙がこぼれる。」

と伊勢神宮詣での際の印象を謳ったようであります。

日本の神道は、世界の他の宗教のように特定の教義などもなく、また無形のことを敬う、しかし、単なる自然崇拜とは異なる、多分、世界的に見れば「特異な宗教」ではないかと思うのであります。

そして、その神道の神が嫌うのは「潔くない」ことであり、だからこそ、人々には、清らかにする行為、禊といったものを求め、清らかであれば、後は様々なことを厳格には追及しない、むしろ、「曖昧にすることの美德」を大切にしているのではないかと思います。

宇宙の法理、自然の摂理の中で人が人として生きる際に、また喧嘩をあまりせずに生きていくと言うことを前提とすれば、むしろこうした清らかさ・潔さに対して素直に生きることと曖昧さを必要とし、これを以って生き延びていく術を見つけることが良い方法であると悟ったのが日本人かもしれせん。

しかしそれが、最近ではその日本人自身も欧米流となり、なんでもかんでもつまびらかにしようとするようになると共に、その反対に実はものごとをつまびらかにするようふりをして清らかではない行為もするようになってきているのではないかと私には思われます。

私たちの生きている世界、どうしたら、よりよい世界になるのでありましようか？

[英語で一言]

ここでは、英語を母国語としない私が英語を母国語としない多くの人々にも伝わるように、「短文、口語体の平易な英単語」を使って、気になる言葉、出来事を、短歌のように数行で示していくことを毎週トライするものであります。

Observation : 観察

私の長年の仕事の中では「観察すること」はとても大切なことであります。

人の観察、物の観察、事態の観察など、観察は様々であります、その対象が何であれ、「観察とは、その観察する対象の実態を知るために注意深く見つめること。」

であるとも言えましょう。

更に、その様子を見て、その変化を詳細に記録していき、どれだけ、その変化を見つけられるかが重要となってくるのであります。

観察をしながら、真理を見極めていく能力が高まれば、仕事を成功させる可能性も高まるとも言えましょう。

鳥瞰図的に、複眼的にもものを見つめ、大局的に分析をして、現状認識を深め、真理に近づけていく力が私たちビジネスをする者たちには求められているのではないのでしょうか。

Observation:

It is defined by dictionary as follows;

- (1) A statement about something you have noticed.
- (2) The act of careful watching and listening and/or the activity of paying close attention to someone or something in order to get information.
- (3) Something you notice by watching and listening.

From my business experience,

Observation is one of the most important points for the success of business.

The object for the observation may be people, may be feature or may be situation, whatever the object is, Observation is to watch, listen, touch, smell and taste carefully in order to know the truth of the object.

And to memorize the change of the object, to recognize those changes of the object is also important.

I can say that by using bird's view, insect's view and analyzing with broad view, it is necessary for us to close to the truth.

#### [主要経済指標]

##### 1. 対米ドル為替相場

韓国：1米ドル／ 1, 013. 30 (前週対比+7. 51)

台湾：1米ドル／29. 87ニュー台湾ドル (前週対比+0. 14)

日本：1米ドル／101, 38円 (前週対比+0. 75)

中国本土：1米ドル／6. 2180人民元 (前週対比+0. 0060)

##### 2. 株式動向

韓国 (ソウル総合指数)：1, 988. 51 (前週対比+20. 44)

台湾 (台北加権指数)：9, 306. 83 (前週対比+33. 04)

日本 (日経平均指数)：15, 095. 00 (前週対比-254. 42)

中国本土 (上海B)：2, 036. 510 (前週対比+9. 836)

以上

草の根の辻説法師を目指す

真田幸光